東奥義塾からのご提案

英語以外の教科を

「英語で学ぶ」。

Global Communication

Toogijuku Junior High School

東奥義塾中学校
設立をめざして。

Global Communication
[グローバルコミュニケーション]
Toogijuku Junior High School

ミッション Our Mission

これまで県内にはなかった
英語教育を実施する中高6カ年教育。
東奥義塾中学校の設立。

コンセプト Our Concept

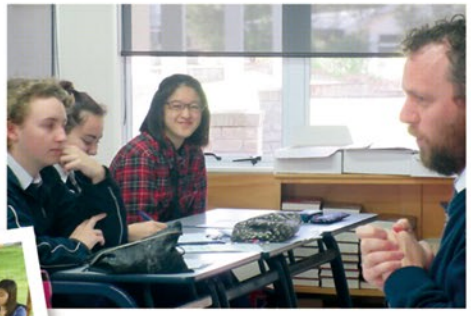
言語力は必要に迫られて付くもの

英語そのものを学ぶことを目的とする学習には限界があります。言語力が身に付くのは、必要とする何かを学ぶ手段として使う時です。相手に伝えなければならない情報があり、外国語で意思の疎通に成功すると、その時に使った言葉はいつまでも忘れません。必要な情報が耳や目から入って来る外国語で理解すると同じことが起きます。私たちのコンセプトは「英語を学ぶ」ではなく「英語で学ぶ」教育です。これは国際会議や国際ビジネスなどの場に積極的に参加できるリーダーを育てることを目標とする本校の使命と考えています。

手段として活用できる「英語力」の育成を。

英語に接する学習時間は公立中学校の3倍以上になります。

数学、理科、社会を英語で学ぶ、
リアルに英語を使う環境を作ります。



これまでの形にとらわれない
これからの時代に向かって共

Our Plan（プラン）

地域に身近なインターナショナル

「英語で学ぶ」環境は、これまで海外留学かインターナショナルスクールに限られていました。海外留学をした東奥義塾の生徒は多くいますが、外国に行くと費用は高く、また、インターナショナルスクールの教育制度は日本の学校と大きく異なります。東奥義塾は日本の教育課程に従い、文科省が認定した教科書を用いながら、英語以外の教科の一部を「英語で学ぶ」教育を提案しています。数学、理科、社会の3教科はそれぞれ週に2時間ずつを英語で学びます。英語力が未熟な中学生も心配のないように、それらの教科については、授業時間を増やし、日本語で学ぶ機会も確保します。

5つのアドバンテージ

Five Advantages

1. 学習する内容は公立中学校と**全く同じ**です。
2. 英語で学ぶ範囲に2倍の時間をかけ、英語による**学習に余裕**を持たせます。
3. 本来あるべき、**学習の内容を目的とする**言語取得過程に沿った学びをします。
4. 言語の決まりにとらわれない、**自由闊達に英語を使用できる環境**が整います。
5. **新しい大学入試制度に対応する**実用的な英語力が身に付きます。

Our Message（メッセージ）

150年目のビジョンと使命

本校は2022年に迎える150周年を機に、如何にしてこれまでの伝統を活かしつつ、青森県の教育に新たな貢献ができるかを検討してまいりました。その結果、数年前から進めてきたICT化に加え、創立当初からの使命だったグローバル・リーダーの育成に、更に力を加える決意を固めました。その手段として、これまで県内になかった形の英語教育を実施する、中高6カ年教育を開始する計画を進めています。それは、受験生をランク付けする目的で行う受験英語ではなく、単なる英会話学習でもなく、他の教科の学習時間を削る英語特化教育でもない「教科横断的な英語学習の実現」に取り組んでいます。青森県の若者が、新しい時代に向かう世界で通用する力を身に付ける機会に恵まれるよう、この計画の実現に向けて力強いご支持を、心からお願い申し上げます。

学校法人東奥義塾　東奥義塾高等学校
理事長　森内 美夫
塾　長　コルドウェル ジョン

Our History（ヒストリー）

キリスト教と国際主義を基盤とする教育

藩校の伝統を受け継ぎ、1872年に東奥義塾として新しい時代を迎えた本校は、創立当初から広い世界に目を向け、海外に生徒を送り出すパイオニアとして活躍しました。その礎となったのは、弘前教会の初代牧師となった本多庸一とジョン・イング宣教師が定めたキリスト教と国際主義を基盤とする教育でした。イング宣教師が行った教育はまさに、全教科を「英語で学ぶ」教科横断的なものだったのです。

前列左から3人目がジョン・イング、右端が佐藤愛麿。
後列左から4人目が珍田捨巳。

1877年に5名の卒業生が、予科で学ぶことなくアメリカの大学に入学することができました。これは当時としては大変珍しいことでした。留学を終えた珍田捨巳と佐藤愛麿は後にそれぞれ、駐米全権大使の任を授かる著名な外交官になりました。2022年に150周年を迎える本校は、この伝統に恥じない優れた人材の育成に全力を注ぐ所存でございます。

、新しい風が吹いています。
に進みましょう。

東奥義塾中学校 設立についてQ&A

Q1 小学校で学んできたレベルの英語力で、数学、理科、社会を学ぶのは可能でしょうか?

A1 工夫をすれば、少数の専門用語以外はごく基礎的な単語と文体を用いて教えることができます。英語の授業が難しくなるのは、次々と難しい単語や文体を学ばせようとするからです。

Q2 それぞれの教科のすべてを英語で学習する事に無理がありませんか?

A2 数学は視覚に訴えやすい幾何の範囲、理科は実験しながら単語と現物を結び付けやすい化学の範囲、社会は世界地理と世界史の範囲を中心に英語で教え、その他の範囲は日本語で教えます。

Q3 英語で学ぶ授業は1週間に何時間ありますか?

A3 英数理社、4教科合わせて週に11時間になります。このほかにホームルーム、特別活動や修学旅行を含むと、英語に接する時間は公立中学校の3倍以上になります。

Q4 数学、理科、社会科を英語で教えるのは誰ですか?

A4 それぞれの教科を教える資格があり、教員経験豊富な英語圏の外国人を2名、2021年4月から採用します。2名とも日本語が堪能で、重要な単語の日本語も教えながら、生徒が不利にならないように工夫します。

Q5 中学校卒業後はどのような進路が考えられますか?

A5 東奥義塾の高等学校に進学すれば、引き続き数学、理科、地歴を英語で学べる機会を設け、高等学校卒業時に国内外の大学の中から選択できる道を備えます。その他の選択肢を選ぶなら、極めて高い英語力を身に付けて高等学校の学習に進学できます。

Q6 学費はいくらですか?

A6 高校生に適用される就学支援金は中学生の大部分に当てはまりませんが、学納金を月額3万円以内に収めるように努めます。

Q7 東奥義塾は弘前市の中心から離れているので、交通手段が気になります。

A7 電車のほか、4路線のスクールバスを運用しているので、安心して通学できます。

Q8 開校予定はいつですか?

A8 入学希望者が十分にいると判断した場合は認可申請をし、2022年4月に開校します。

Q9 体験授業や見学会はいつ、どこで行われますか?

A9 説明会に続いて各地で公開授業を実施します。日時と場所は東奥義塾のウェブサイトに順次、掲載致します。下記のメールアドレスにご一報をいただけると、中学校設立についての最新情報と、説明会や体験授業についてお知らせします。

説明会日程会場(予定)		
2月20日(土)	午後2時より	弘前市民会館大会議室
2月27日(土)	午後2時より	板柳町多目的ホールあぷる
3月 7日(日)	午後2時より	スポカルイン黒石大会議室
3月13日(土)	午後2時より	中央公民館岩木館大ホール
3月20日(土)	午後2時より	弘前市総合学習センター大会議室

東奥義塾中学校 設立について…

説明会や入学体験などの情報は随時発信していきます。

LINEの友だち追加で最新情報を受け取ることができます ▶▶▶▶▶▶

質問やお問い合わせはメールで受け付けています。 toogijukuchugakko@gmail.com

学校法人 東奥義塾
東奥義塾高等学校
〒036-8124　青森県弘前市大字石川字長者森61-1
■ Tel:0172-92-4111　■ Fax:0172-92-4116
東奥義塾HP　http://www.gijuku.ac.jp/
東奥義塾ホームページはこちら→